

地理歴史科（地理総合）学習指導案

1 単元名 東南アジアの自然環境

この単元は、「2 内容」の「B 国際理解と国際協力」の「(1) 生活文化の多様性と国際理解」に該当する。

2 単元の目標

- (1) 世界の人々の特色ある生活文化を基に、人々の生活文化が、地形、気候などの自然環境、歴史的背景や経済発展などの社会環境から影響を受けたり、影響を与えたりして多様性をもつことや、それらの地理的環境の変化によって変容することなどについて理解する。
- (2) 世界の人々の特色ある生活文化を基に、自他の文化を尊重し、国際理解を図ることの重要性などについて理解する。
- (3) 世界の人々の生活文化について、その生活文化が見られる場所の特徴や自然及び社会的条件との関わりなどに着目して、「地理的環境を踏まえた生活文化の理解と尊重」などの主題を設定し、「多様な生活文化に配慮して、世界の人々が共存するためにはどのような工夫が必要なのだろうか」などを、多面的・多角的に考察し、表現する。
- (4) 生活文化の多様性と国際理解について、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に追究しようとする態度を養う。

3 単元の指導計画（全体8時間）

(1) 指導計画

- ・世界の気候と人々の生活 6時間
- ・モンスーンの影響を受ける地域での生活 —東南アジア— 2時間（本時2/2）

(2) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・世界の人々の特色ある生活文化を基に、人々の生活文化が地理的環境から影響を受けたり、影響を与えたりして多様性をもつことや、地理的環境の変化によって変容することなどについて理解している。 ・世界の人々の特色ある生活文化を基に、自他の文化を尊重し国際理解を図ることの重要性などについて理解している。	・世界の人々の生活文化について、その生活文化が見られる場所の特徴や自然及び社会的条件との関わりなどに着目して、主題を設定し、多様性や変容の要因などを多面的・多角的に考察し、表現している。	・生活文化の多様性と国際理解について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

(3) 指導内容及び評価計画

(○…「評定に用いる評価」、●…「学習改善につなげる評価」)

次	学習内容	ねらい・学習活動	評価の観点			(B) 具体的な評価規準 (C) 具体的支援	評価方法
			知	思	態		
第1次 (6)	【学習課題】<単元を貫く問い>「地形や気候が現在の生活文化や産業にどのような影響を与えているだろうか」						
	・気温・降水と人々の生活 ・大気大循環と人々の生活	【ねらい】気候の3要素が気候に与える影響を理解する。 ・それぞれの気候区における特徴と生活への影響を理解する。 ・恒常風や季節風が吹く原理を理解した上で、それぞれの風が気候に与える影響を考察する。	●	●	●	【主】(B) 気温や降水の特徴を踏まえた上で、緯度によって人間生活が異なることを説明できる。 (C) 教科書の図や本文をまとめるよう支援を行う。 【主】(B) 大気大循環を踏まえた上で、風が人間生活に与える影響を説明できる。 (C) 教科書の図や本文をまとめるよう支援を	・ワークシート1の記述を基に評価する。 ・ワークシート2の記述を基に評価する。

	<ul style="list-style-type: none"> 世界の植生と気候区分 各気候区の生活 	<ul style="list-style-type: none"> 各気候区の気温と降水、植生の特徴を理解する。 各気候区の気候と植生が衣食住や産業に与える影響を考察する。 	●	●	<p>行う。</p> <p>【知】(B)ケッペンの気候区分の基準と指標を説明できる。</p> <p>(C)教科書の図を基に判断できる。</p> <p>【主】(B)各気候が衣食住や産業に与える影響を説明できる。</p> <p>(C)事例とする地域を例示し、考察するよう促す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ロイロノートの小テスト結果を基に評価する。 ワークシート4の記述を基に評価する。
	<p>【学習課題】<問い>「季節風は、東南アジアの人々の生活にどのような影響を与えているのだろうか」</p>					
	<ul style="list-style-type: none"> モンスーンの影響を受けてきた人々の生活 	<p>【ねらい】東南アジアの人々の生活に地形と気候が与えた影響について考察する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 地形や気候要素を基に、季節変動の特徴とその影響を考察する。 交易の歴史や民族分布に注目し、それぞれの地域でみられる特徴を考察する。 	●	●	<p>【思】(B)写真や地図から特徴を読み取り、その現象が見られる背景を記述している。</p> <p>(C)写真や地図の着眼点を指摘し、考察するよう支援を行う。</p> <p>【思】(B)それぞれの地域で見られる特徴を記述している。</p> <p>(C)既習事項や地図帳の図を示し、考察するよう促す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート5、6の記述を基に評価する。 ワークシート7の記述を基に評価する。
第2次(2)	<ul style="list-style-type: none"> 気候を生かした農業と人々の生活 	<ul style="list-style-type: none"> 各国における稲作の特徴を地形や気候に注目し、まとめる。 プランテーション農業について、モノカルチャー経済から多角化や工業化に転換した理由を考察する。 東南アジアの自然環境が人々の生活文化に与える影響を考察する。 	○	●	<p>【知】(B)地形や季節の違いを踏まえて、生産の特徴を説明できる。</p> <p>(C)東南アジアにおける地形と季節風の特徴を振り返らせる。</p> <p>【思】(B)教科書の図6を基に、農業の多角化や工業化により、転換が進んでいることがまとめられる。</p> <p>(C)品目の変化に注目し、考察するよう促す。</p> <p>【主】(B)地形と気候の特徴を踏まえ、衣食住に与える影響を説明できる。</p> <p>(C)稲作と気候に注目し、説明するよう促す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート8の記述を基に評価する。 ワークシート9の記述を基に評価する。 ワークシート10の記述を基に評価する。

4 本時の指導と評価の計画

(1) 本時の目標

- ア 既習事項を基に、農業形態の多様性や変容の要因などを多面的・多角的に考察し、表現する。
イ 東南アジアの自然環境が人々の生活文化に与えている影響を考察し、表現する。

(2) 本時の展開

(○…「評定に用いる評価」、●…「学習改善につなげる評価」)

	学習内容	学習活動	指導上の留意点・評価
導入	・前時の復習	・大地形と気候を確認する。	・前時までの学習に触れる程度にする。
展開	・稲作の発達と米食文化 ・熱帯の気候を生かした商品作物	・インドシナ半島とインドネシア・フィリピンの稲作の特徴についてまとめる。 ・モノカルチャー経済の特徴を踏まえ、工業化を図った理由と方法を考察する。	○ワークシート8 【思考・判断・表現】 ●ワークシート9 【思考・判断・表現】
まとめ	・まとめ	・東南アジアの自然環境が人々の生活文化に与える影響を考察する。	○ワークシート10 【主体的に学習に取り組む態度】

(3) 本時の評価規準

ア ワークシート(8)の評価規準【思考・判断・表現】

- ・東南アジアの稲作の特徴をまとめ、表現する。

判断基準

「おおむね満足できる」状況（B）と判断される例

- ・沖積平野と山地といった地形を踏まえた稲作の特徴をまとめ、表現することができる。

「十分満足できる」状況（A）と判断される例

- ・地形だけでなく、気候や人口増加なども関連付けてまとめることができる。

「努力を要する」状況（C）と判断される生徒の例と教師の指導

- ・稲作の特徴をまとめ、表現することができない。→具体的な国を挙げ、その国の地形に注目してまとめさせる。

イ ワークシート(10)の評価規準【主体的に学習に取り組む態度】

- ・東南アジアの自然環境が人々の生活文化に与える影響を主体的に考えることができる。

判断基準

「おおむね満足できる」状況（B）と判断される例

- ・気候・地形などのうち、1つの要素と影響を関連付けてまとめることができる。

「十分満足できる」状況（A）と判断される例

- ・気候や地形など2つ以上の要素と影響を関連付けて説明することができる。

「努力を要する」状況（C）と判断される生徒の例と教師の指導

- ・自然環境が与える影響をまとめることができない。→前時や本時の内容に注目し、影響を考察するよう促す。

5 成果と課題

(1) 成果

中学校や歴史総合での既習事項と前時の学習を踏まえ、ワークシートの課題を多面的・多角的に考察し、まとめることができたと考える。授業展開もワーク（6）を踏まえてワーク（8）を解答すれば、B評価を得られるように基準を設定している。

ワーク（8）については、A評価が10%、B評価が90%であった。A評価の生徒は、島嶼部の「棚田」とそれが成立する背景として人口に言及して答えていた。インドネシアの人口が多いことを生徒たちは中学校で学んでおり、それを結び付けて解答したものと思われる。大陸側の沖積平野については、氾濫原や三角州での稲作といった地形に言及している解答がほとんどであり、この評価基準であればB評価とすべきであろう。しかし、今回はどちらかがA評価に値する記述が

できていれば、A評価とした。

ワーク(9)については、A評価が30%、B評価が70%であった。B評価の生徒は、気候または地形のみに注目し、記述していた。一方で、A評価の生徒は、地形と気候を組み合わせで説明していた。

(A評価の例)

- ・【指摘】 東南アジア大陸部は雨季になると洪水の被害が増える。
- 【理由】 東南アジアは夏に湿った季節風が吹き、雨季になると、川が氾濫し洪水が起きる。そのため、集落が自然堤防に作られたり、住居が高床式であったりする。
- ・【指摘】 季節風
- 【理由】 季節風によってもたらされる雨がメコン川やチャオプラヤ川に流れ三角州が発達する。その三角州は後背地域となり稲作をさかんに行っている。

「思考・判断・表現」を行う場面では、事象に対する「知識」や図・グラフなどを読む「技能」があることが前提となる。今回の実践では、「知識」の確認は導入での教員の発問と生徒相互の答えの確認で十分であると判断した。生徒によっては、小テストなどの手法を用いて確認した上で、授業を展開した方が望ましい。

(2) 課題

本校の生徒は、教科書のキーワードは中学校時代に覚えていることが多い。ただし、その用語を理解した上で使用しているかという点では、一問一答的には答えられるが、用語説明や論述で用語を使いこなすレベルまで到達していないように見受けられた。系統地理のパートで「知識・技能」の定着にある程度の労力を割く必要がある。その上で、地誌のパートにおいて、前時までに身に付けた「知識・技能」を活用し、資料を「思考・判断・表現」する活動を行えば、スムーズな授業展開が期待できたであろう。この自然環境の単元は、「B 国際理解と国際協力」の「(1) 生活文化の多様性と国際理解」の最初に扱うテーマである。この後に扱う言語・宗教、歴史的背景、産業と学びを進めるごとに、生徒は思考のパターンを学ぶとともに、教員も生徒の成果を基に授業改善を繰り返し、よりよい実践が可能になるだろう。

地理Bや地理探究の地誌で同様の内容を扱うとすれば、自然環境だけでなく、他の自然的・社会的条件を踏まえて考察・論述することになる。地理総合では判断する際の条件が限定されるため、論述問題を出題すると、教科書の本文をまとめれば解答できるのが実状である。今後は、教科書レベルの解答で満足するのではなく、既習事項や歴史総合など他科目の知識を更に活用し、多角的・多面的な考察や探究を促す質問や手法を探っていきたい。